

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JAあいち尾東 本店	階数	地上3階
建設地	愛知県日進市蟹甲町地下208番2、213番1、260番1	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	130 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年8月30日
敷地面積	3,938 m <sup>2</sup>	作成者	小林 亮
建築面積	1,958 m <sup>2</sup>	確認日	2022年9月7日
延床面積	4,284 m <sup>2</sup>	確認者	小林 亮



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%
②建築物の取組み	46	83%
③上記+②以外の	46	83%
④上記+	46	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	4.0
空気質環境	4.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.8
耐用性	2.9
対応性	3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	1.0
まちなみ	4.0
地域性	3.0

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	3.4
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.6
地域環境	3.0
周辺環境	2.7

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.6**

#### ③敷地内の緑化

**1.0**

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.1 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

#### ②資源の有効活用

**3.2**

#### ④地域材の活用

**3.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>  
磁器質タイル、陶器質煉瓦スクリーン

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>  
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
<b>4 空気環境</b>											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視											
2 喫煙の制御											
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 パリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	4.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.74	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			光アトリウム設備	3.0	4.0	0.20	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.76	3.0	3.4	0.30	-	-	3.4
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	S造により、躯体と仕上げは容易に分別。OAフロアの採用	3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率83%	-	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		独自		-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動		独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	1.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0.1%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>3.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	磁器質タイル、陶器質煉瓦スクリーン
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 JAあいち尾東 本店

計画上の配慮事項	
総合	JAあいち尾東の中心拠点として、組合員・利用者から永く愛される施設となるよう、主に以下の3点に重点を置いた計画としている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地産材を活用した外装計画</li> <li>・ウェルネスを向上する自然採光、自然換気計画</li> <li>・メンテナンスを軽減する外皮計画</li> </ul>
Q1 室内環境	建物正面となる南東面に煉瓦スクリーンを配して、日射遮蔽と眺望を両立する設計としている。 開口部にはLow-Eガラスを採用して、冷暖房負荷を軽減する計画としている。
Q2 サービス性能	建物の中心に屋外吹抜空間(光アトリウム)を設けて、職員のリフレッシュ及びコミュニケーションを誘発を図るする計画としている。 外装は前面に光触媒塗装を施し、自浄性・清掃性に優れた計画とし、外部デッキの露出鉄部はメッキ処理を行い、防汚性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	外壁タイル及びスクリーンに用いる陶器質煉瓦は、JAあいち尾東管内である瀬戸産の土を用いたものとし、地域性に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	開口部のLow-Eガラスや煉瓦スクリーン、屋外吹抜空間(光アトリウム)の採用により、窓廻りの熱負荷の低減を行っている。
LR2 資源・マテリアル	躯体材料以外にリサイクル材を採用して、環境負荷の低減を図っている。
LR3 敷地外環境	敷地内に十分な駐車台数の確保を行い、周辺環境への配慮を行っている。
その他	特に無し。